

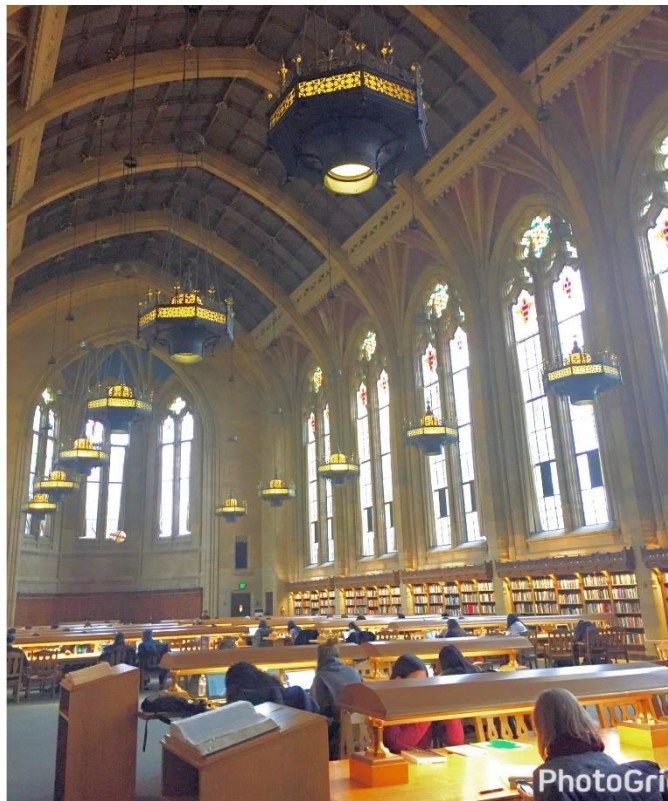
# 私が見てきた世界は最高に素晴らしかった！

札幌校 養護教育専攻 2年 蓑島ひな

3月19日に3週間にわたる米国・ワシントン大学短期英語プログラムを終え、アメリカ・シアトルより帰国しました。小さい頃からアメリカでの生活や寛容な文化に憧れ、いつか自分の目でアメリカを見て、自分の身体でアメリカの生活を経験し、日本とアメリカの違いをみつけてみたいとずっと思っていました。かねてからの思いがかない、涙を流すくらいうれしかった3週間のプログラムはあっという間に終わりました。同時に娘のように愛してくれたホストマザーMarieとの別れが悲しく、帰国した今は心に穴が開いているようです。以下では、私が見てきた最高のアメリカでの生活・英語学習について書きます。今後、幼少期の私のような想いでこのプログラムへの参加を考えている方たちにぜひ読んでいただければと思います。

## 1. プログラムで受講した授業に対する印象、コメント

私が所属していたクラスでは、基本英語だけで授業が展開されていきました。クラスメイトはみな日本人でしたが、英語でコミュニケーションをとります。私はできる限り日本語を使うことは避け、自分の語彙力や表現力でためらいなく話そうと決めていました。なぜならば、クラスメイトはみな日本人だからこそ、つついコミュニケーションのとりやすい日本語を話したくなります。だからといって、英語を積極的に話さずに日本語にすぐ頼り、シャイになって英語を話さないでいるのは、せっかく近くに英語を学ぶ最適な環境があるのもったいないと思ったのです。話し合いがうまく進まなくてもグループで協力しながらお互いに質問しあったり、わかりやすい例を持ち出した



△大学内の図書館 (Suzzallo Library)

りしてなんとか言いたいことを英語で伝えようと努力しました。もちろん最初は苦戦します。個々の語彙力もリスニング力も違うので、グループ全員がスムーズに相手の言いたいことを理解できるとは限りません。しかし、私はその過程こそが最良の英語学習だと思いました。今まで、教科書と参考書・ノートと向き合い、一生懸命語彙力や文法力と知識をたくさん持っているはずなのに、実際には話すことができない。本来、英語を含む言語はコミュニケーションの一手段であるべきなのではないのかと気づかされた瞬間でした。使えなかった英語をコミュニケーションのための使える英語への変換作業がこのプログラムにて行われたのだと思っています。改めて、英語学習の目的を考えさせられました。

上では、授業の大枠について書きました。ここからは、授業でどのようなことをどんな目的で行われたのかについて紹介したいと思います。まず、リスニング力・語彙力向上のために毎週洋画を見ていました。事前に宿題として映画の内容を理解するための補助プリントが出されていました。これは単語に関するプリントで、各単語の意味として適切なものを1～10の中から選ぶといったものです。この事前学習のおかげで、映画の内容を理解しやすかったです。また、受験のための英語学習では学べない英会話でよく使われる単語、熟語、英語独特の言い回しを学ぶこともできました。また、私が授業で最も印象的だった活動は美術館巡りです。シアトルの産業や太平洋を囲む国々の歴史などさまざまな分野について幅広く学習できました。美術館は機会を与えられないと行くことがないうえ、現地でなければ学べないことがほとんどだったので大変貴重な体験でした。他、大学周辺のカフェで人気商品などの聞き込み調査をしたり、最終プレゼンテーションの準備・発表、週末の出来事をクラスメイトと共有したりしました。

## 2. ワシントン大学での生活体験、シアトルの都市の様子、次回の参加者に伝えたいこと

3週間程のアメリカ生活はすべてが新鮮でとても楽しかったです。まず、シアトルの人はとても優しいです。初めてひとりで大学までバスで行くときにいくら払えばよいのか困っていると、同じバスに乗ろうとしていた人が助けてくれました。また、日本に興味を持ってくれている人もたくさんいます。ホストマザーもそのうちの一人で、日本語のあいさつを教えてほしいと言われたことがあります。一方で、文化の異なる地での生活に慣れるには時間がかかりました。日本での当たり前が通用しないことが多々あったので、事前に調べてから行くと心に余裕が持てるのかなと思います。私も文化の違いに苦戦しましたが、そのようなときには「郷に入れば郷に従え」の精神でいました。アメリカでの生活なので、日本の習慣を持ち込むことをやめました。みなさんもおそらく個々が今まで持っていた外国のイメージと異なる点を見つけるでしょう。そのときは、寛容な心でそれを受け止め、どっぷりとアメリカの習慣に従ってほしいなと思います。最後に、私が皆さんに伝えたいことはただひとつ。積極的に英語でコミュニケーションをとってください。アメリカには色んな国の人がいます。なので、本当にみんな優しく私たち日本人を迎えてくれます。困っていたら、時間がある限り助けようとしてくれます。うまく話せるかな…とか、

話しかけて嫌な顔されたらどうしよう…と迷っている時間ももったいないです。なぜならば、私たちに与えられた時間はわずか3週間です。私も気が付けば、帰国日が明日と迫っていました。やりたいことができないで終わり、旅立つ前後でなんの変化もなかったと後で後悔だけはしないでください。せっかく与えられたチャンスは無駄にしてほしくないという想いがとても強いです。実際に日本に帰ってくると、格段に英語を話す機会は少なくなりました。ですから、勇気をもって英語で色んなひとに自ら話しかけてください。そこで得られたものは、失敗しながらも勇敢に英語を話したあなたにしかわからないはずです。「Don't be afraid! Don't be shy!!」



△クラスメイトともお別れの前に修了書と共に。